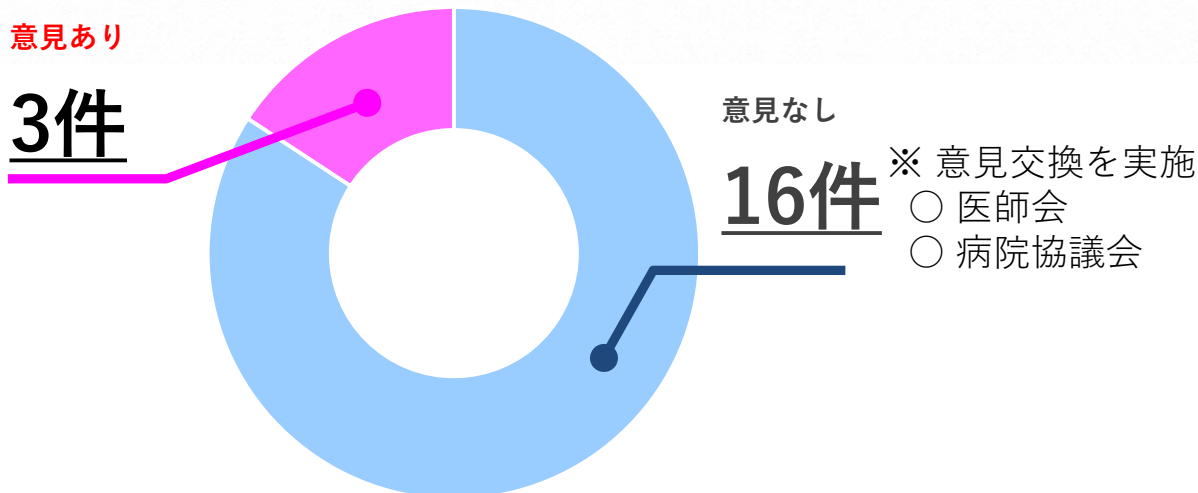




第2回健康いわき推進会議 書面協議結果



資料 2



No.	意見	計画への反映等
1	「睡眠・休養に関すること」が青年期のみ記載されているが壮年期の結果も知りたい。	現計画では、青年期のみ指標として設定されていましたが、次期計画では、青年期に加え、壮年期・高齢期も指標として設定する考えです。
2	基本方針までは「必要」、「重要」と表記しているが、施策の展開に係る文言については、実効性を重視し、「推進」、「促進」等で表記してはどうか。	第5章「分野別の施策の展開」以降において、具体的な施策や進め方等を提示するため、推進などの表現を用いる考えです。
3	概要版において、「朝食を食べる頻度」の結果より、「健康の維持増進や内臓脂肪症候群等の予防」に関する結果を掲載した方が良いのではないかと。	特に「学童期」「青年期」において、現状値の結果が著しく悪化しており、これまで以上に市民の意識醸成を図る必要があると考え、「朝食を食べる頻度」を掲載したところとす。ご指摘の指標については、次期食育推進計画においても指標として設定する考えです。
4	福島県並びにいわき市の喫煙率は高く、全国との差を踏まえ、次期数値目標の設定にあたっては、なお一層の取り組みが必要。禁煙対策の推進に取り組む姿勢を強調することを期待する。	喫煙率の高さは健康指標やアンケート調査の結果からも課題の一つと考えています。喫煙及び受動喫煙対策により、COPDの発症予防等にもつなげる必要があり、関係機関と連携した取り組みを推進する考えです。
5	ライフコースアプローチの視点に立ち各種施策を実施することにより、市民が一貫性のある健康づくりを進められることを期待している。	次期計画では、ライフコースアプローチの視点を重視し、わかりやすい言葉やイラスト等を用いて、市民の行動につながるような計画構成にしたいと考えています。



意見交換の結果【抜粋】

医師会

- 食育の柱は「ひとしお」になることから、「ひとしおPJ」が手詰まりとならないよう進めてほしい。
- 高齢者の進展に対応した高齢者対策が必要。
- 高齢者の運動機会や人と触れ合う機会の創出。特に中山間地域の対策が必要。
- 健診受診率については、今まで実施してきて改善が見えないことから、強力な取組みを考える必要がある。
- 女性：骨折、男性：脳卒中など、具体的でインパクトのある取組みを示してはどうか。
- 子供向けの取組みを厚くしてほしい。
- 口腔対策として、みんなで話す機会や集まる場を設けていく必要がある。
- 一般の方がわかりにくい言葉の使い方は使用しないほうが良い。
- 塩分摂取量に関しては、コンビニ、ファストフードなどの利用が多い生活も大きく影響していることが想定されるため、事業のPR方法について工夫が必要。
- 老老介護となり仕事をやめなければならないケースが出てくると、労働人口の減少といった課題が出てくる。国だけでなく市としても対策が必要ではないかと考える。
- 誰でもわかり、インパクトがあるフレーズで伝える必要がある。
- 本市は進行がんも多く、特に意識が低い大腸がんが多くなっている。大腸がんは健診による早期発見・治療で結果が大きく変わることから健診受診が必要。

病院協議会

- 市民への啓発にもつながることから、市ホームページなどに、健康データ(健康指標)を、わかりやすい表・グラフ等で掲載してほしい。
- 喫煙率の高さは、脳卒中の率を高めるなど大きなリスクとなっている。指標などについて、ピックアップしてはどうか。
- 市民への啓発として、「禁煙デー」を設けるなども考えられる。
- 人間の味覚は3歳までに形成されることを踏まえると、子育て世代の親に対する減塩教育などが必要。減塩対策についてもPRしていただきたい。
- 高齢者に対しては、認知症という点も踏まえていただきたい。
- いわき市は中山間地域での対策が必要で、こちら側から地域に向向していく必要がある。